郡山市立小原田中学校
学校だより
No.14
手をたずさえて

“KOHARADA WAY” 自分に打ちかて
■ 心身ともに健康で明朗な生徒
■ 自主的に学習する生徒
■ 責任を重んじ協調性のある生徒

令和２年７月１０日（金）発行
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長　熊 坂　洋

思いを馳(は)せる。そして、『命の重み』を受け止めること

コロナ渦の中、熊本県、福岡県など九州地方において、また豪雨による甚大な被害が発生しています。これまで６０人以上の死亡が確認され、未だ行方不明者もいます。茶色の濁流、氾濫する河川、橋や鉄橋の流出、浸水する家屋、山肌を削りとる土砂崩れ、必死に捜索を続ける警察や自衛隊員、消防隊員の姿や捜索を見守る家族の姿、懸命に後片付けをする姿など、連日のようにテレビ映像を目にします。九州以外の地域にも被害が広がっています。日を追う毎にその被害の甚大さが明らかになっています。昨年度の台風１９号による被害とオーバーラップします。心が痛みます。

今、九州などから遠く離れた場所にいる我々に、何ができるのか。何をしなくてはいけないのか。

まずは、**“思いを馳(は)せる”（遠方の人や物事に思いをめぐらせる）**ことだと思います。台風１９号等による豪雨被害、そして東日本大震災を経験した我々だからこそ、他人事ではない“思い”をしっかり持つことができると思います。哀悼の意を示すことはもちろんですが、命の大切さ、思いやり、貢献、畏敬(いけい)の念、さらには危険回避の方法など、今の自分の状況をさまざまなことに結び付けながら考えていくことが必要です。さらに、今後浸水被害を受ける可能性のある地域にいる者として、自らの備えもしっかりとしておかなければなりません。

※ 畏敬(いけい)の念：自然や偉大な人物やものをおそれうやまうこと

この世には、重さや量など数値化して測ることのできないものがあります。それは、人の『命』です。
谷川俊太郎さんの詩を紹介します。『くり返す』というタイトルの詩の一節です。

くり返すことができる　あやまちをくり返すことができる
くり返すことができる　後悔をくり返すことができる
だがくり返すことはできない　人の命をくり返すことはできない
けれどもくり返さねばならない　人の命は大事だとくり返さねばならない
命はくり返せないと　くり返さねばならない

自然災害は別として、毎日のように社会の中では、自己の欲望や一瞬の衝動などにより人の命を奪ったり、命を粗末にしたりする事件や事故が起きています。その一つ一つが痛ましく、悲しいものです。特に我々は、東日本大震災の発生以降、「命の大切さ」について様々な場面で考えてきました。災害や事故等で「生きたくても、生きることのできなかった命」がたくさんあったということを知っているはずです。

今日はもう一度「命の大切さ」「命の重み」について、みんなに考えてほしいと思います。命を大切にするという、人間としてとても大切な心情（人間としての一番の基盤）を今ここでしっかりと胸に刻んでほしいのです。大切なことは、次の段階として「命を大切にするとは、具体的に何をどうすればいいのだろうか？」ということを考え、実行することです。具体的に何をすればよいのか…

そのひとつの側面は、「自分を大切にすること」だと思います。

例えば、事故には防ぐことのできない事故と防ぐことのできる事故があります。「慣れ」からの事故防止については学校では何度も具体的に話をしてきました。事故防止、特に交通事故防止への取り組みは、命を大切にすることの具体的な実践場面であると思います。自転車のスピードの出し過ぎ、急な飛び出し、ヘルメットの未着用、一旦停止違反など…これらはすべて自分の責任において止めることができることです。

そして、もうひとつの側面は、「他（人・もの・こと）を大切にすること」だと思います。

例えば、人を傷つけること。集団で個人を攻撃したり、悪口を言ったり、無視したりすること。物を壊したり、大切に扱わなかったりすること。命を大切にできる人は、善悪の判断がしっかりとできるでしょう。思いやりの心をもって人と接することができるでしょう。ものを大切に使うこともできるはずです。ルールもしっかり守れるはずです。

「命を大切にする」ことは、我々が生きていく上での一番根っこにあるもので、「自他（自分と他）を尊重する」ということにつながっていきます。そして、今の君たちの生活場面における様々な具体的な行動にあてはめることができるはずです。どうか今の自分自身を見つめ直し、様々な生活場面で為すべき方向へと行動を移していってほしいと強く願います。

～放送講話（7/10）より～

テストの後をより大切にしよう！

テスト問題に挑む生徒達

７月６日（月）には今年度最初の定期テストが実施されました。
全校生一斉に行い、順位等も出る中学校の定期テスト。１年生にとっては初めての経験でした。テスト後の授業では解答用紙が返却され、テスト反省が実施されています。「点数」はもちろん一番の関心事でしょう。しかし、忘れてはいけないのは、テストに至るまでの「過程」です。テスト当日までの自分の学習への取り組みや努力の度合いについて、しっかり振り返り反省を加えてほしいと思います。

テスト後に実行すること

① 解答用紙が配付されたら、模範解答を作成する。
② できなかった問題は、なぜ間違った（できなかった）のかをはっきりさせ、分からなかったら、先生に自分が納得するまで質問し解決する。
③ もう一度何も見ないで問題を解いてみる。
④ 問題用紙と模範解答をファイリングする。これからの実力テストや将来の入試対策に役立つ時が必ず来る。

みんな“いい顔”してました！　盛り上がった2年ミニ体育祭

７月７日（火）まさに“The Star Festival（七夕祭り）”とネーミングされた２年ミニ体育祭が開催されました。６月23日の第１弾バレーボール大会に続く第２弾でした。「玉入れ」、「八の字跳び」、問題を解き正解すればゴールできるチャンス走、綱引きの４種目が行われました。体力、チームワーク、知力を駆使する趣向を凝らした種目でした。総合優勝は１組でした。僅差で２位は３組でした。しかしながら、２組は最後の綱引きで圧倒的な強さを見せました。それぞれのクラスの持ち味が発揮されるとともに、競技者も応援者が一体感をもって取り組めた体育祭でした。終了後はみんないい顔をしていました。この活気をここで終わらせるのではなく、いい形で次の活動や日常生活に生かしていってほしいと思います。運営・準備・後片付けを中心になって行ってくれた学級役員、体育委員の生徒達に感謝します。そして、２年生全生徒及び先生方に拍手を送ります。２名の生徒の体育祭を終えての感想です。

僕は学級対抗バレーボールで１位になれなかったのが、すごく悔しかったです。最初から調子を上げられなかったのが特に悔しかったです。だけど、ボールをたくさんつなげられて、とても楽しかったです。ミニ体育祭は優勝できてとても嬉しいです。玉入れ、大縄、セレクト９、綱引き全ての競技で、協力、応援し合い、とてもいい雰囲気でした。中でも最後の綱引きは、応援の声が格段に大きくなって楽しく、盛り上がりました。ハプニングもあったけど、とても楽しめたし、ミスをしても一切責めず励まし合って、クラスの絆がより深まったと思います。来年はバレーで１位になり、総合で優勝できるよう頑張ります。（３組　吉田輝明君）

新しいクラスになり、初めての体育祭でした。バレーボール大会ではクラス一丸となり挑戦し、確実なチームワークを作りました。どのクラスも大きな声援で、特にクラスの代表として出場する「最強チーム」での戦いはとても接戦でした。私の１組は優勝することができ、とてもうれしかったです。ミニ体育祭では、綱引きや玉入れ、大縄跳びなどが行われました。綱引きでは２組が圧倒的でした。ミニ体育祭で優勝したのは３組でしたが総合優勝したのは１組でした。クラスのみんなで協力して勝ち取った総合優勝は思い出となりました。一致団結した１組で、これからの行事も成功させたいと思います。

（１組　伊野裕美さん）

ひとつひとつの学級のまとまりが、学校全体の動きを大きく左右します。体育祭で得た思いを大切にしてください。